

吹奏楽部定期演奏会

本日は、ようこそ久御山高校吹奏楽部定期演奏会においで下さいました。
開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

春は梅の香りから始まります。

「寒風に凜と咲きたり君が梅」・・・これは自作の句です。

厳寒の冬に一番に咲く梅は、努力の人、鍛練の人の譬えであるとともに、馥郁^{ふくいく}と香るその姿から高貴な人格者にもたとえられます。この梅の花とともに卒業生を送り出した時、白いコブシの花が咲き、そして待ちに待った絢爛たる桜が校庭に咲きます。この桜とともに新入生を迎え入れ、久御山高校の新学期が始まります。

5月のゴールデンウィークは新緑の季節、ツツジの花が競い合い、夏ともなれば小泉八雲がもっとも愛したサルスベリの花が長期間可憐に咲きます。秋風が吹けば、私の大好きなコスモスの花が風に揺れます。日本古来の花と思っている人が多いのですが、実は南米からの外来種です。可憐であるが生命力は強い花です。そしてどこからか金木犀の高貴な感じの芳香があたりに漂いはじめ、秋深まるころには、柿や栗の実が、そして霜を覚える頃となれば、紅葉が宇治川に映えます。そして寒い日には垣根の山茶花の花が見事な花をつけます。

去年は源氏物語千年紀、この源氏物語は花々の物語でもあります。数えてみると草木類が123種類登場するそうです。春は梅、桜、藤、山吹、夏は楓^{かえで}、朝顔^{なでしこ}・夕顔^{しやうぼ}、撫子、菖蒲、秋は萩^{ふじばかま}、藤袴^{あみなえし}、女郎花^{ききよう}、桔梗^{こなら}、冬は木槿、松などです。特に春の紫の上と秋好む中宮との春秋の優劣の争いは、実に美しい音楽とともにあります。春には春の風景が、秋には秋の風情があり、この四季明確な日本にいと、それぞれの景色が絵画のように感じられます。

こうした個性ある木々花々があって、春夏秋冬の季節を構成し、その四つの季節があって1年であり、全体として日本の自然、風景となります。どれ一つが欠けても日本の自然、日本の1年にはなりません。本校の吹奏楽部の1年も同じだと思っています。

フルートもクラリネットも、トランペットもホルンも、そしてパーカッションも、それぞれが固有の花であり、どの花一つ欠けても素晴らしい四季の曲は演奏できません。それぞれが見事に咲いて、久御山の吹奏楽部だと思っています。唐の詩人「劉希夷」の「白頭を悲しむ翁に代る」という詩の中に「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」という有名な詩句があります。毎年毎年同じように花は咲くが、年ごとに異なる人が去来するという意味ですが、各パートの花は毎年同じような音色を奏でますが、出す人は常に新しく異なる個性を持って奏でます。

今年も先日、吹奏楽部員12名が卒業いたしました。本日は、新しい部長を迎えて、卒業した3年生を含む42名の個性豊かな生徒達が、日頃の練習の成果を最大限に開花させて、見事な音の世界を醸し出してくれると信じています。

外では、美しい夜桜が静かに咲いて、演奏が始まるのを待っています。生徒達の久御山高校3年間の思い出の花の音楽を、最後までお聞きくださいますようお願いして、簡単ですが開会のあいさつとします。